

# 滝上町100年祭

## 開拓の 鉄の重みよ 100年祭



左から長屋町長、武田はなさん、村山協賛会長、中内式典部会長

# 滝上町100年祭標語決定!

平成20年は滝上町で本格的な開拓がはじまった明治41年から数えて100年(1世紀)となります。

滝上町100年祭記念事業協賛会では100年祭を盛り上げる標語(キャッチ・フレーズ)を広く

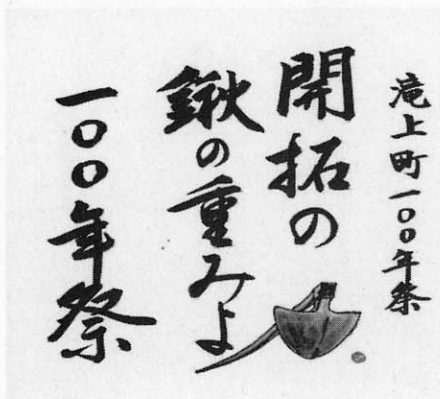
募集をしていました。道外からも応募があり、集まった作品を滝上町100年祭記念事業協賛会式典部会で選考の結果、「100年祭標語」が決定しました。

この標語は、武田はなさん(旭町)から応募のあった作品で、今後は100年祭記念式典のしおりや宣伝看板、街頭フラッグ、各種協賛事業の宣伝広告などに使用されます。

4月7日、役場応接室で標語作品の発表が行われ、標語を応募いただいた武田はなさんに滝上町100年祭記念事業協賛会より記念品が贈られました。

作品について、武田はなさんから「大正7年におじいちゃんがお店を滝上町ではじめました。お店ももうすぐ100年になります。開拓には食べるものがなく皆さん苦勞してきただと思います。その先人が苦勞して築き上げてきた、滝上町の歴史を表現したかった。作品が選ばれたことありがとうございます。」とお話がありました。

協賛会長の村山勝利さんからは、「この標語のとおり開拓の重みを受け止め、次の世代にも引き継いでいかなければなりません。いよいよ滝上町100年祭が本格的にスタートします。いろいろな場面でこの標語を活用し100年祭を盛り上げていきます。」とあいさつがありました。



作：武田はな 書：黒田和俊

# 住民と行政の協働を進めるため まちづくり審議会 広報の充実が必要

去る、3月17日、役場大会議室において「滝上町まちづくり審議会」の第4回会議が開催されました。第3回からの議論の継続として、前回協議の内容から住民と行政による「協働」のあり方について議論されました。

## 【主な協議内容】

○保育所、幼稚園で子どもたちのおやつに袋菓子などが出されていると聞く、手作りのものを出すことはできないのか。「食育」も考える必要があるのではないか。

○給食センターの利用拡大として独居老人等への「食」の提供を行うことはできないのか。

○15年前子どもが幼稚園に入園した。そのころにも幼保一元化の話が出ていたが進んでいない。保育サービスの充実が必要である。

○第3回の会議を基に「聞く広報」について考えみた。

(1) 自身が防火クラブに所属しており、防火啓発のために消防署員に同行し各家庭を訪問している。その際の会話の中から生活ぶりや人となりを知ることができ、また病歴や困っていることなど、その人の情報を得ることができる。その情報を行

政や町内会で共有することはできないか。

(2) 発信媒体を録音CDやポッドキャストなど比較的経費がおさえられるもので整備する。町内会やサークル活動などを取材し、各施設やインターネットで聞くことで情報発信する。情報を広く共有することができないか。

「ポッドキャスト」とは、インターネットを使って配信されているラジオ番組を、誰でも気軽に好きなときに、聴くことができるしくみのこと。

○民生委員やたすけあいチームなどの活用でできることが広がるのではないか。例えば高齢者等に対する福祉灯油の周知など広報のみでは理解できていない。

○これからはインターネットを活用した情報提供が必要である。

○情報を知る場は多くある。町広報はマンネリ化している。まちづくり地区担当を活用して、地区担当者が各地区の記事を書いてはどうか。

○広報の配布方法だが、全戸配布、

## 第3回会議での協議内容

- ・町内会による施設管理
- ・滝上町青年団(仮称)等の組織化
- ・まちの説明会の実施
- ・インターネットの活用、情報発信(共有)
- ・住民活動に対応する相談窓口の設置
- ・夜間保育等、保育サービスの充実
- ・協働による具体的な事業化(札久留道々線の整備)
- ・ミニFMの設置
- ・広報による個人情報の掲載(結婚、出産、死亡、寄付)

回覧がまぎっており、各戸で取らないで回っていることもよく見られる。

○耳から情報伝えるため、各施設に入所されている方が聞くことができるように、広報をCDに録音したり、テレフォンサービスなどをしてはどうか。

○聞く広報という考え方はよい。住民に身近なことを発信することにより、情報の共有が図られるのではないか。

○町のホームページは面白くない。文章の書き方をやわらかくするべき。

○広報に載せる内容の議論を審議会によって行うべき。子どもに広報の1ページをお願いするなど。

○ホームページでは気温がマイナス30度をこえた、ウグイスが初鳴きした、積雪がゼロになったなど生活に密着した情報の提供が必要。

長屋町長からは、「広報を読んでもらえるためにどうしたらいいか、町内のあちこちに録音したものを流すにはかなりお金をかけなければならぬ。インターネットは見てもらう、聞いてもらう工夫が大切だと感じました。」と話がありました。

また、次回のテーマを①町の情報をどうやって伝えたらいいのか(情報伝達)②取材記事をどうやって集めたらいいのか(情報収集)③町の情報をどう集めればいいのか(情報をつなぐ)を次回以降のテーマとしてほしいと提案があり会議を閉会しました。